

吹田の郷

発行/NPO法人すいた市民環境会議 事務局/〒564-0062大阪府吹田市垂水町3丁目8-28, 705 TEL/090-8375-0647 FAX/06-6386-9491 中村小夜子
会長/小田忠文 ホームページ <http://www3.big.or.jp/%7Esskk/sskk.htm> 設立/1997年3月15日 編集長/山本富雄
年会費/正会員(個人・団体)1,000円、正会員(法人)10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円 郵便払込口座番号/00980-3=28845



目次

コラム	会長・小田忠文	……	2頁
	最近の主な活動報告	10月25日～12月25日	…… 2頁
特集「吹田をソーラータウンに」	生活環境委員会	……	3～6頁
	あルック吹田散策シリーズ	まちなみ委員会	…… 7頁
吹田版	七草の貴重種 絶滅危惧種	生き物委員会	…… 8頁
寄稿「吹田のキツネと人間は共存できるか」	副会長・高畠耕一郎	……	9～12頁
	紹介シリーズ	北千里高校科学部	…… 13頁
		お知らせ	…… 14頁



吹田市の緑化公園室は昨年秋に「花と緑 水めぐる遊歩道」を発表しました。これは2003年11月から市民の有志が集まり行政と協働して市内に21の散策コースを考案したものです。昨年11月にそのうちの三つのコースのお披露目ウォーキングがありました。▲すいた市民環境会議は1997年に市内にある幹まわりが2mを超える大木を調査して420本を記録しました。そして「吹田の古木・大木」として冊子にまとめ発表しました。その際、単に大木の調査結果を掲載するだけではなく、それら大木を見なが

ら散策できる13のコースを考案し掲載しました。▲2001年にはその経験をもとに吹田の歴史をも見て歩けるように観光マップ「あलック吹田」を作りました。そのマップを利用して多くの会員や市民の皆さまが散策していただいていることはご承知の通りです。今回の「花と緑水めぐる遊歩道」も市内の資源を知ろうという目的のために作られたと聞いています。▲昨今、市報を見ると市内を散策するイベントが数多くの団体で開催されており、うれしいことです。今後ともすいた市民環境会議は散策に限らず広く環境問題に関して多くの市民が参加できる仕組みを数多く提案していきたく思っています。

最近の主な活動報告 (10月25日～12月25日)

- 10月26、29日 四条畷東小学校でエコ・エコ・クッキング
- 11月10日 メイシアターで生活環境委員会 出席者4名
- 11月13日 まちなみ散策、桃山台・春日・緑地公園コース 参加者21名
- 11月13、14日 万博自然文化園で環境フェスティバルに出展
- 11月19、24、26日 高野台小学校でエコ・エコ・クッキング
- 11月23日 千里山高塚周辺で七草調査 参加者13名
- 11月29日 メイシアター小ホールで地球温暖化防止タウンミーティング 参加者51名
- 12月 1日 東大阪永和小学校でエコ・エコ・クッキング
- 12月 5日 シンポジウム「地質が明かす吹田の環境」 全参加者57名
主催・吹田地学会、NPO法人模型と画像で歴史を語る研究会
協力・すいた市民環境会議
- 12月11日 まちなみ委員会研修会 (今井町見学と交流) 参加者20名
- 12月22日 市民会館ですいたグリーンファンド立ち上げ準備会「あった会」とする

「表紙は語る」

表紙の絵は「千里山佐井寺図書館西館」です。この建物は平成16年6月に完成したものです。昭和初期に建てられた「千里第二小学校」の木造校舎を復元した、当吹田市唯一の歴史的文化財といっても過言ではありません。古い柱・腰板などを一枚一枚磨き上げて再利用されたものです。この木造校舎復元にあたっては、地元住民の熱意と卒業生の方々の涙ぐましい活動と努力があったと聞いています。吹田に、歴史を語り継ぐ物が一つ出来た事を喜びたいと思っています。(山)

特集

地球温暖化防止タウンミーティング

吹田をソーラータウンに!

☆「吹田をソーラータウンに!」と題した温暖化防止タウンミーティングを11月29日(月)午後7時からメシアターで開催しました。参加者は51名でした。

☆主催は大阪府地球温暖化防止活動推進センター。すいた市民環境会議は実施団体として参画したものです。府下で大阪市ほか5市がそれぞれのテーマで開催しました。

☆「NPO法人きょうとグリーンファンド」副理事長 龍池妃都美(りゅうちひとみ)さんより市民共同発電所の活動報告がありました。⇒下記

☆引き続き、久 隆浩(ひさたかひろ)さん(近畿大学工学部助教授)をコーディネーターとして、参加者全員で「自然エネルギーを推進しよう」「どうしたら実現できるか」についてフリートーキングを行いました。⇒次ページ

☆一歩でも前に進みたい、使うならきれいなエネルギーがいい...

私たちの願いがいつか実現できますように!

☆願いを形にするために歩みはじめました。

そのために「あった会」(仮称)を作りました。ぜひご参加ください。⇒6ページ



みんなで作りました 市民共同発電所

「NPO法人きょうとグリーンファンド」副理事長
龍池妃都美さん

寄付金や会員の基金により、私立保育園などに太陽光発電の設備を設置しています。設備所有権は設置者に譲渡し、すっきりした状態でやっています。設備設置者から使用電力の節約分の料金を基金に寄付してもらい、次の発電所の増設につなげています。今では第5号機までの稼働に成功しています。

設置箇所としては、法然院が第1号で、以後は保育園。園児や親をはじめ、市民の節電・省エネ、自然エネルギーへの関心を高め、環境教育に大きな効果を発揮しています。

また発電しているということが園児にわかるように、絵による電光掲示に工夫を凝らし、これはとても評判がよいようです。

⇒次ページ下段の写真



子ども情報研究センター発行←
「はらっば」12月号
「エコ探究」より



フリートーカーキング



久 隆浩さん

久隆浩さんをコーディネーターとし、龍池さんの報告への質問も含め、約1時間、参加者全員で、ソーラー発電への思いを込めてフリートーカーキングをおこないました。一部をご紹介します。

A : 太陽光発電でペイするのですか?

龍池 : ペイは考えていません。

B : 寄付の金額はいくらですか?

龍池 : 平均して1件(1人)、3000円位でした。

久 : 新しい形の環境寄進かなと思います。そこで吹田でも一つつけようじゃないかとの思いを語り合ってみたいと思います。

C : 日本瓦の屋根にもつけられるのですか?

久 : どんな屋根にもつけられるものができており重さに耐えられるのが課題です。

D : ガソリンスタンドで風力発電を売り物にしている所があります。太陽光発電でもできるのではないのでしょうか。

龍池 : “子供達にこそ必要”との思いで、環境学習を念頭において活動していますので、人が集まる所に設置して、広く多くの人に関わって貰いたいと思っています。

久 : 設置した幼稚園は募集要項に載せているのですか?

龍池 : キャッチフレーズにされていると思います。

久 : 岸和田では企業がボランティアで作った機械が広報され、機械と企業が評価されるという波及効果を生んでいます。

E : 私立の幼稚園に設置されていますが、公共施設の屋上が難しいのは法的な問題があるのですか。

公共施設の屋根は空いていると思うのですが。

龍池 : 京都では公共施設にもつけているのですが、やりにくかったです。公共施設は環境学習の場として最適ですが、教育機関との折衝にはエネルギーが必要ですね。



吹田の屋根が輝く夢、見えた?

久 : 管理の手間はいかがでしょうか?

龍池 : 雨が降れば埃は流れてしまいます。冬の設置で立木の影響が分からなかった例や、黄砂の影響があった例もあります。

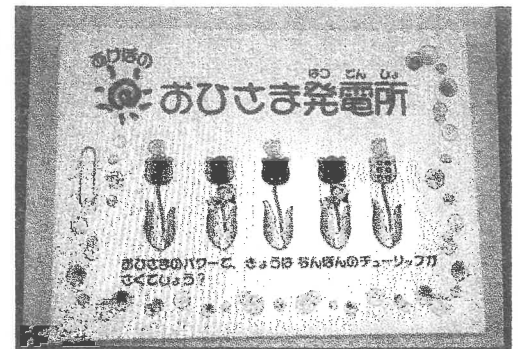
F : 会員120人ということだが、一度寄付された方が再度寄付されることがありますか? 他の団体からの寄付なく自立的に設置できるという資金計画はあるのでしょうか?

龍池 : 会員は月500円×12月=6000円、その内4000円が事務経費と了解して戴いています。設置幼稚園の発電分の戻りは5kWシステムで年間10万円です。設置基数が増えるほど基金は膨らんでいきます。

G : 環境学習の話で、園児に省エネルギーの話をしているとのことだが、具体的には…

龍池 : TVを見ないと5つ進み、付けっぱなしで寝たら戻るなどの双六を作っています。また、ソーラー発電キットを見せています。ソーラーパネルに光を当てると噴水が上がり、手をかざすと止まるんです。

久 : チューリップに光が付くなどのアイディアは幼稚園の先生ならではの発想ですね。



おひさまパワーで花が咲く



参加者のみなさんへのアンケートから
く以下は生活環境委員のつぶやきです

アンケートから

「感想・提案」など

- ★官公に頼らず、民から官公にないアイデアを発信しては。くそうしましょ!
- ★なかなか良かった。ソーラー発電はガソリンスタンドの風力発電のように発電して手いところが動いて見えないので、何か特別な工夫がほしい。これから一緒に考えたい。くぜひ、ごいっしょに!
- ★環境に関心がある人を抜げていくことが最も大事と思う。発想の転換が大事。まず、1台つけて抜げる…これも、突破口になるくほんとホント!
- ★やはり吹田ですので、太陽の塔がイメージ的に出てきますね。だれしも、ホームタウンには思い入れがあるもの。その心をどのようにソーラータウンにつなげていくか、ですね。く「太陽の塔」のある町から太陽のまちにしましょ!
- ★今後の活動の参考にさせていただきます。くまた、お会いしましょう!
- ★最初としてはこんなものではなからうか。くまず一歩から!
- ★龍地さんの話、コーディネーターの久先生の進行が良かった。く豊富で具体的な事例で勇気わいてきました!
- ★吹田にもグリーンファンドができるかな? その時は協力させていただきます。くぜひ、ぜひ!
- ★どうしたら若い世代の人が参加してくれるのでしょうか? (環境イベントを開催しても、若い人の参加が少ないのでいつも悩んでいる担当者です) く共通の悩みかも…
- ★夜の時間は主婦にとってはやはり出にくい時間かな? 私たちの手でパネルがついたらすごくうれしい。く開催時間が遅すぎた?うれしさをみんなの力で実現したいね!



「興味深かったこと」など

- ※太陽光発電だけでなく、太陽温水や雨水利用、生ごみ堆肥など家庭からできればいいなと思いました。くできます!やりました!
- ※参加者が少ないように思う。意見はたくさん出たと思うが具体的に実現できるような発言が少なかったように思う。お金を集めるのには、興味とメリットが必要であるが、インパクトのある目的が示されなかったように思う。(興味深かった)くまだこれから。あきらめないよ!
- ※発電量をチューリップの点灯数で表す、心をくすぐる工夫。く見上げる子どもたちがうれしそう!
- ※きょうとグリーンファンド、寄付でお金を集めるのは賢い考え。施設設置者の理解と協力が必要。く吹田ではどんなやり方がいいかなあ!
- ※このような取り組みを始められた思いがよくわかった。それが形になったことに感動。く思いをかたちに・・・これからこれから・・・
- ※寄付方式は将来の環境社会の理想的な財源確保のしくみだと考えるが、今の時点ではまだまだこれからのかなと思っています。でも、先進事例を紹介していただいて、とても可能性を感じました。く可能性はある。あとはやるだけ!
- ※京都での着実な取り組み、私立の園で実行するのは大変良いアイデアだと思った。我が子の通園するところなら(競って)寄付することでしょう。くきれいな電気を使いたいね!

集まれ!
太陽の塔をまぶしがらせてみたい
人
これからつくります!
市民共同発電所!

* 少し昔を懐かしみました *

あ Лукすいたの散策シリーズ<番外編>

桃山台・緑地公園コース 11月13日(土)

豊中市上新田 生駒 敏子



桃山公園

11月13日(土)は「桃山台」から「服部緑地公園」まで歩きました。秋晴れの結構な日でした。午前9時30分、桃山台駅に21名が集まりました。

駅の南にある桃山公園の春日大池(かすがのおおいけ)には噴水のある、眺めの美しい池でした。噴水の向こうの白い花は何かと思ひ、後でよく見たらパンパシでした。紅葉にはまだ早いようでした。

続いて、池の南の竹林に行きました。竹は<松・竹・梅>の一つ。立派です。竹に触れたのも喜びでした。



竹林に入って説明を受ける

その後、旧春日村の、昔ながらの旧家が点在しているのを見ながら、また丁度柿の季節でもあり、柿の実が秋の眩しい陽の光を受けて輝くのも横目で見ながら歩を進めるうちに、団地の間に「春日神社」の鳥居が見えて来ました。

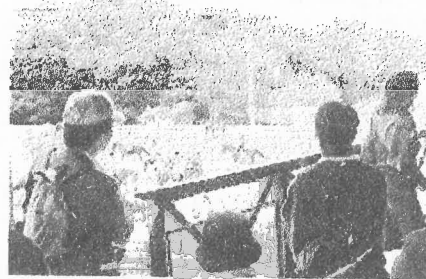
坂を登ると木々の繁った中に「春日神社」の柿葺(こけらぶき)社殿がありました。狛犬の



春日神社境内

白い涎掛(よだれかけ)がユーモラスでした。「春日神社」は1648年の創建との由、徳川家光在世の古い時代のお話です。境内には、「愛宕社(あたごしゃ)の祠(ほこら)」や「稻荷神社の祠」などがありました。

周辺は昔から「下新田」といわれて親しまれてきた地域だそうですが、現在では「上新田」の地名の方が広く残っています。「下新田」は無くなったのかしら…。見つけました。「下新田」の住居表示を見つめました。少し昔にタイムスリップしました。



服部乗馬センター

次に、整備された「高川(たかがわ)」の横を通り、「服部乗馬センター」へ行きました。多くの若い方々が各々に乗馬を楽しんでおられました。“皆さん馬のお好きな方々なのだろうな”と思いました。

「服部緑地公園」はコスモスの花が満開で、他にも美しい花の咲く手入れの行き届いた公園でした。

午後は、「日本民家集落博物館」を見学しました。

ご案内いただきました皆様方にお礼を申し上げます。有難うございました。

吹田版七草の貴重種・絶滅危惧種？

1. 秋の七草観察会

生きもの委員会では七草調査の勉強会を兼ねた観察会を行ってきたが、秋に入って9/23北千里苗圃(前号報告)、10/10 桃山台～春日、11/23 千里山高塚と3回実施した。

月	9/23	10/10	11/23	
調査地NO	1481	1349	1431	
観察場所	北千里苗圃	桃山台～春日	千里山高塚	
環境	公園・農場跡地	田んぼ・畑	田んぼ・畑	
七草計	春	4	10	15
	夏	3	3	4
	秋	13	13	12
観察種合計	94	108	98	

3ヶ所とも吹田市では草の多い所、しかも春日・千里山高塚は田んぼや畑が残っていることから、トータル100種前後、秋の七草も15種中の12～13種が観察できた。一方、春の七草は、残暑の残る9月(北千里)ではタンポポなど一年中見られる種のみであったが、秋が深まるにつれ幼苗が出はじめ、一部花の咲いているものが見つかるようになり、千里山高塚では春の七草15種全種が確認できた。



ㄥ 千里山高塚の田んぼに全員集合

2. 七草調査結果の中間報告

七草調査は本年度中に結果集約を行うが、現在まで分かったことで、いろいろ興味深いデータが出ている。

①全51区画で確認できた種 37種中8種

春の七草 3種 タンポポ・ヨモギ・シロツメクサ

夏の七草 3種 カタバミ・ツユクサ・ヒメジョオン

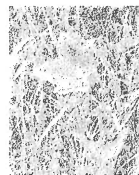
秋の七草 2種 エノコログサ・ヘクソカズラ

何処にでもあると思われるセイタカアワダチソウの見つからない所が1区画あるので、再調査を予定している。8種の内、日本在来種はツユクサ・ヘクソカズラのみ、他の6種は徳川末期以降に海外から侵入してきた帰化種が中心であり、帰化種の繁殖力の強さを証明している。

②吹田の貴重種、絶滅危惧種

調査51区域のうち、確認できた所が5区域以下という七草が4種あった。

イ)2区域のみ キキョウ



キキョウの確認は千里ニュータウンのみであった。道路の斜面などに数株しかないので、元からあった自然のキキョウかどうかは、不明である。

ロ)4区域のみ ウツボグサ

確認した4区域は何れも千里ニュータウンであったが、広く群生している所があるので、人為的に植えられたものでないと思われる。ウツボグサは多年草であり、ニュータウン開発時、削られた土の中に残っていて、完成後も草刈り周期などの管理状態が、ウツボグサの生育条件と合致していて、繁殖範囲を広げたと思われる。

ハ)5区域のみ アキノタムラソウ・ツリガネニンジンの2種

秋に観察会を行った春日・千里山高塚・北千里苗圃の3ヶ所ともツリガネニンジンがあり、春日・高塚にはアキノタムラソウがあった。



この2種はいわゆる「ツリガネニンジン」昔からの里山と田畑、即ち千里丘陵の原風景が残っている地域にのみ残る、吹田版絶滅危惧種といえる。(平 軍二)

<寄稿>

吹田のキツネと人間は共存できるか

～大企業社宅地跡に生存するキツネ保護活動の報告～

高島 耕一郎

本稿は、すいた市民環境会議副会長・高島耕一郎の報告をく 財団法人 大阪自然環境保全協会会報誌「都市と自然」345号(2004年12月号)から転載したものです。一年半余に亘る当会と吹田自然観察会の活動記録でもあります。

* * * * *

野生のキツネが生息する吹田市市街地にある社宅跡地を、地権者である日本生命がマンション開発業者に売却することになった。地元環境NPOの吹田自然観察会とすいた市民環境会議は共同でキツネ保護活動を行い、吹田市行政の仲立ちで日本生命と1年半交渉した結果、キツネの生息調査を日本生命が1年かけて実施することになった。その経過と課題を報告する。

1. 吹田にキツネがいて繁殖していた

始まりは、2000年秋に私が勤務していた中学校区にある「日本生命社宅」にキツネが出ているといううわさを聞いた事だった。その時、生徒に聞くと「学校の帰りに見たことがある。大人はキツネだと言っている。」とのことであった。そこで直接確認するために、2000年10月6日の早朝6時頃に現地に行くとするで犬の散歩者が柵越しに見ている、私もそれに加わった。2匹のキツネが15m先にいた。大変感動した。犬の散歩者に聞くと、「キツネは5～6年前から見かける」「早朝によく見かける。時には、餌をやると至近距離までくることもある。」「時期によっては子ギツネも出てくる。」というびっくりするような話であった。

キツネは大阪では目撃情報も大変少なく、大阪府のレッドデータブックで準絶滅危惧種(存続基盤が脆弱な種)に指定されている。吹田市は人口35万人。大阪府で7番目に大きな都市部での生息・繁殖は大変貴重なことである。

2. キツネ保護のために動いた

私が所属する吹田自然観察会で討議し、会として吹田市長宛てに要望書「吹田に生息する野生キツネの保護について」(2001年1月10日)を提出した。内容は、

1. 吹田市として野生のキツネの生息確認調査を実施してほしい。

2. 吹田市内で野生のキツネが生息し続けることができるように、動物の専門家と協議しつつその営巣地や、採餌・繁殖の環境を確保してほしい。

の2点であった。吹田市の反応は早く、2日後には、生活環境部長ら3人が現地視察に訪れ、20後の1月30日には、市長名で回答者が届いた。その内容は、

1. キツネの生息確認については、現在、専門的知識を有する社団法人大阪自然環境保全協会と協議中である
2. キツネの生息場所の確保については、生息場所が民有地であり、その用途の決定に市としての強制力を発することは困難だが、キツネが準絶滅危惧種であることに鑑み、可能性の道を検討していきたいと考えている

とあった。

私たちはその後独自調査を行い、①キツネが現在も複数匹生息していること、②子ギツネがいて繁殖していること、③餌を求めて人前に姿を現すことがあるが、それ以外の行動圏や営巣地の詳細は不明であること、などがわかった。

その後、吹田市内でキツネが生息繁殖しているといううわさは除々に広がっていき、この3月末には、地元のケーブルテレビが、1週間にわたる特集番組「キツネの棲む街～キツネを取り巻く環境と共存への道～」を放映した。この番組は、第27回日本ケーブルテレビ大賞番組コンクールのグランプリに選ばれ、NHKでも放映され話題になった。

吹田自然観察会会報誌で“吹田のキツネの現状と保護”を記事にして訴えた。また、吹田市内で環境問題に取り組んでいるNPO法人すいた市民環境会議と共同でキツネの保護運動に取り組むことになった。

その年の夏にキツネは子育てして全部で5～6匹になっていたが、冬に数匹いなくなったという情報と同時に、直線距離で1600mしか離れていない紫金山公園で複数のキツネが出ているとのうわさが出始めた。

2002年の春には紫金山でも子ギツネをみるようになった。さらに、JR吹田駅から徒歩10分以内の片山公園でもキツネと子ギツネが発見され、朝の散歩者の前に出てきているとの情報も入り、吹田でも3カ所もキツネが繁殖している状態になった。

1960年に千里ニュータウン建設が始まるまでは、吹田市内にもキツネはごく普通にいたようである。しかし、1970年の万国博覧会開催以降、公式にはキツネの記録は吹田市にはなく、キツネの復活は大変な驚きであった。



3. マンション用地として売却計画／吹田キツネの危機

その後キツネが生息している日本生命社宅地が閉鎖になり、約9haの土地がマンション建設用地として売却される予定であることが2002年3月末に明らかになった。この緑豊かな空間がマンション群に変われば、ここを生活・繁殖の場に行っているキツネは追い出されてしまうことになる。そんな中、2002年4月11日に吹田市環境室地球環境課の仲立ちで日本生命(不動産部や弁護士)と、私を含む地元でキツネ観察をしている3名とで話し合いを持った。

日本生命は、用地をマンション用地として第三者に売却予定のため社宅地を閉鎖しキツネを捕獲

して箕面の山など別の場所に移動させることを考えているなどと説明。市の環境室長は、市の環境アセスの対象になると発言し、日本生命に慎重な行動を要請する発言もした。この日は、地元でキツネ観察している人や環境 NPO は、①自分達の意見をまとめて提案をする、②その仲介を吹田市地球環境課が行い、日本生命と話し合いの場を持つ、という確認をした。その後、話し合いは2ヶ月に1回ほどの頻度でほぼ1年半続けられた。

民間企業の所有地とはいえ、準絶滅危惧種のキツネが生息している空間をすべて奪う行為を見直して欲しいという気持ちで、2002年7月4日に、吹田自然観察会とすいた市民環境会議は連名で要望書を日本生命社長宛に送付した。その内容は、要約すると以下の3点となる。

1. キツネの生息、繁殖状況についての科学的な調査を要望する。
2. 現在生息しているキツネの個体保護とその生息環境の保全を要望する。
3. 日本生命保有地をマンション建設地として第三者に売却するのではなく、自社所有地として緑豊かな環境地として整備されることを要望する。

これに対する回答が日本生命社長名でであった。(2002年9月3日)。

- ・利用計画がない本件社宅地跡地は、速やかにかつ出来る限り有利な方法で処分を検討せざるを得ない。
- ・弊社が本件社宅地跡地を処分せざるを得ないことを前提としてもらえれば、キツネの科学的な生息調査につき、協議のうえ可能な範囲内の協力を検討する。

要するに「土地売却を認めてくれるなら、キツネ調査を日本生命がしましょう。」というものであった。

4. 日本生命がキツネ調査をすることで一応の合意成立

その後、この内容を巡り1年半にわたって何回も話し合いが行われ、最終的に以下の確認書を日本生命と吹田自然観察会、すいた市民環境会議、三者の代表者名で取り交わした(2004年3月1日)。

確認書【抜粋】日本生命と吹田自然観察会、すいた市民環境会議 2004年3月1日

①日本生命は、吹田自然観察会、すいた市民環境会議の要望に対応して本件調査を行うものとする。②この土地を第三者に売却する場合は、キツネ調査結果を正確かつ誠実に当該売却先に伝えるものとする。③調査実施にあたりキツネの生息に十分配慮する。④調査に係る費用は、日本生命が負担する。

なお、キツネ調査を行う会社は、仲介者の吹田市地球環境課が推薦する会社にするということで三者が合意した。調査内容については調査会社も入って時間をかけて議論した。キツネ保護のための調査であるため、キツネに過度の負担がかからないような内容を検討した。その結果調査期間を1年とし、調査内容は ①痕跡調査(年4回、糞や足跡など。利用場所の特定) ②食性調査(何を食べているのかを季節ごと) ③行動調査(捕獲し、発信器装着で追跡。もちろんキツネの生命・身体に危害が及ぶ危険性を最大限に排除した方法を用いる)とした。

現在は調査期間に入っており調査は2005年の3月に終了する予定である。

日本生命社宅跡地では現在建物は全て壊され、更地になっている。更に、隣接する他の所有者の

緑地帯 1 戸建て住宅地建設開発ですべてなくなってしまった。そんな状況でも日本生命の社宅跡地では 2004 年もキツネは繁殖し、時々姿を現している。

しかし、紫金山公園や片山公園で見られたキツネは、2004 年になってから全く姿を見せなくなった。

5. 粘り強い交渉と誠実な対応

今回、キツネの調査が地権者の費用負担で行われるようになったのは、大企業である日本生命が地元 NPO の要望に誠実に対応してくれた結果である。一時期話し合いは決裂しかけたが、行政の仲介や市議会議員の応援もあり、話し合いが 1 年半も続けられ、一定の結論をえた。

我々、NPO 側も粘り強く交渉し、保全協会などの専門機関と相談したり、多くの方の意見を取り入れたりして日本生命を納得させる材料を出してきた。

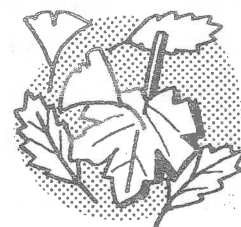
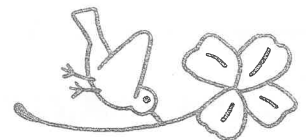
環境 NPO がキツネの生息調査を要求したのは、これらのキツネが末永く吹田市に住み続けて欲しいからである。イギリスのロンドンでは人とキツネが共生し、たくさんの野生キツネが街中に進出し、街の人もキツネを受け入れ、子育ても温かく見守っている様子が NHK 番組（「生きもの地球紀行」2001 年 11 月）で放映されていた。吹田市でもキツネと共存していくのは可能である。

今回の日本生命との話し合いで、私たちは一貫して「キツネの個体保護ではなく、キツネが生息できる環境を残してほしい」と訴えてきた。どんな環境でどの場所を残すことによってキツネと地域の人たちとが共存できるのかを探ることが今回のキツネ調査の目的であると私たちは考えている。

しかし、大型マンション群の開発を考えている業者にとっては、その点が一番受け入れがたいのが現実である。キツネの生息調査の結果を踏まえて、この土地の開発が環境に優しいものになっていくのかどうかは、開発業者の姿勢にかかっていると言える。

今回のキツネ調査で、キツネの保護とその生息環境が保障されたわけではない。確認書にも「調査をし、売却先にも伝えるが、キツネの保護、緑地保全を保証するものではない」と書かれている。キツネ調査は、環境 NPO 側と日本生命側とでは解釈が異なったままである。

われわれ環境 NPO 側は、キツネ調査が実施され、その調査結果からキツネが生息し続けうる環境条件を探っていきたいと考えている。それに基づいての開発を、日本生命が売却する業者にも要望していくつもりである。その場合も、地元の人や行政、支援者の方と、キツネと共存できるまちづくりを話し合い、共同歩調をとれるようなシステムづくりをしていきたいと考えている。



会員紹介シリーズ その⑦

* * * * *

私たち科学部は、様々な活動をしています。たいいていのは「科学部」と聞いて“頭のいい集団”とか“暗い”とかのイメージを持たれるかも知れませんが、私たちは違います。いつもワイワイと、にぎやかに活動しています。

それでは、活動内容についてお話ししましょう。まず、毎月一回行われている「竹炭焼き」への参加。この「竹炭焼き」は学校の窯を使って千里竹の会が行っているもので、毎回竹の会の皆さんに色々な事を教わっています。本年度の活動としては、千里北公園で行われた「千里の竹あかり」の準備のお手伝い・「北千里公民館の秋祭りの科学実験教室」・同じく北千里公民館の「親子科学実験教室」でのプラネタリウムの上映・箕面市で開かれた「ヒメボタルサミット」の受付のお手伝い・大阪府の「ヒートアイランド現象調査」（この調査は、すいた環境教育フェアで展示させて頂く事が出来ました。）・天体観測・野鳥観察・樹木観察などがあります。今は吹田市役所から分けていただいた「吹田めだか」の飼育もしています。これからの季節は、「どんぐり拾い」や「粘土を集めての土鈴作り」などをする予定です。私たちは、自然に触れ、自然の大切さやありがたさを学んでいます。

これらの活動の中から「北千里公民館の秋祭り」での科学実験教室の実験アシスタントをした時のことをお話したいと思います。この実験教室は子どもたちを対象にして行われました。子どもたちに理科実験の楽しさを教えてあげたいと思いました。私たち科学部は巨大シャボン玉を持って行きました。実験は「低温の世界」「電気の世界」「気圧の世界」「原始の世界」の四つに分けられていました。

「低温の世界」の実験は、ドライアイスと液体窒素を使って行われました。特に人気だったのは、[ドライアイスロケット]。フィルムケースにドライ

大阪府立北千里高校 科学部

* * * * *

アイスと水を少し入れ、発生した二酸化炭素によってフィルムケースを飛ばすという実験です。

「電気の世界」はコイルを作って実験しました。

「気圧の世界」では、ビンの中にゆで卵を入れるという実験と空気砲の実験をしました。

「原始の世界」は、“火起しに挑戦してみよう！！”というものでした。火はつきませんでした。惜しいところまではいきました。

これらの実験は子どもたちだけでなく大人の方にも楽しんでもらえたと思います。中でも一番印象に残っているのは、外国の方と一緒に過ごしたことです。一緒にシャボン玉をし、「低温の世界」で遊びました。会話はあまり成り立っていませんでしたが、一緒に楽しめたと思います。とっても笑顔の素敵な方だったんです。

最後に私事ですが、11月13日（土）に表彰式に行ってきた。ボランティア・スピリット・アワード」に応募したところ、コミュニティー賞に入ったのです。「ボランティア・スピリット・アワード」とは、米国最大級の金融サービス機関であるブルデンシャルファイナンスが1995年にアメリカで開始した青少年を対象とした、ボランティアを支援する制度です。コミ

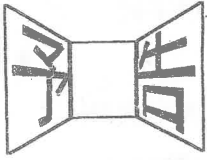
ュニティー賞部門では、日本全国で150名が選ばれます。今回、大阪では8名が受賞しました。その中の一人に選ばれたのです。これも地域の皆さん

やその活動に支えてもらって取れたのだと思います。

ですので、これからも皆さんの色々なアドヴァイスやご指導をよろしくお願いします。

2004年11月 文； 科学部部长 齋藤綾美





あろく吹田の番外編コース

大阪府みどりの景観賞受賞のミスタードーナツカレッジと 近・現代の彫刻美術館「スキュルチュール江坂」見学

日時：平成17年3月12日（土）小雨決行

集合：ダスキン本社ビル2階自由空間 岡本太郎壁画前
（北大阪急行江坂駅北徒歩3分 新御堂筋西側）

参加費：400円（美術館入場料含む）

昼食会参加希望者は別途昼食費個人負担（1500円程度）

申込：先着25名（会員限定）

3月9日（水）までに松岡へ（TEL & FAX 06-6384-8168）

正午頃アメニティ江坂解散、希望者はカーニバルプラザで昼食会

2005年ジャスコとの共催バスツアーのご案内

毎年、春に、ジャスコ南千里店と共催で、環境を考えるバスツアーを実施しています。今回は、神戸方面に「神戸市森林公園」と「神戸市人未来防災センター」を訪問します。親子でも参加できるような内容ですので、毎年人気のバスツアーです。

【実施日】 2005年 4月9日（土）9:00～17:00（雨天決行）

【行き先】 午前中：神戸市森林公園 午後：神戸市人未来防災センター

【集合】 吹田市役所 正門前 9:00

【参加費】 2000円（中学生以上）小学生以下は1000円・幼時は無料
（交通費、昼食、保険代、講師代すべて含む。）

【参加人数】 バス1台：50名<ジャスコ側25名・すいた市民環境会議側25名>

【申込み】 2005年3月1日（火）～3月6日（日）

佐藤和子まで TEL・FAX：06-6387-2096（9:00～21:00の間）

編集後記

*去年は台風が多かった。被害もまた甚大だった。台風の大量発生・北上コースの変化（つまり、たくさんの台風が何度も日本列島を直撃するという事）の原因の一つに、海水の温度上昇いわゆる温暖化現象が挙げられている。*早くから議決されていた「京都議定書」がやっとのことで2005年2月から発効される。待ったなしでCO₂排出量規制が義務化される事は喜ばしい。*これに呼応した訳ではないが、当会もこのほど「吹田をソーラータウンに」と大きなアドバルーンを上げた。この事に関心を持たれた諸氏50名程が集まって活発な論議がなされた。本号ではこれを出来る限り詳細に伝えたいと特集を試みた。*手探りながら、新しい試みの産声である。この産声が将来、元気な泣き声となり笑い声となるために多くの皆さんの賛同と協力が必要な事は論を待たない。

（編集長）